

平成29年度 第1回防府市中小企業振興会議 会議録

日時 平成29年8月7日（月）14時00分から
場所 市役所4号館3階 第1会議室

出席委員 13名
欠席委員 なし
事務局 7名

1 開会挨拶

【事務局】

平成26年度に、中小企業者、特に小規模事業者を対象にした中小企業振興基本条例を、議会と共に作り上げた。平成27年8月から、中小企業振興会議が始まり、協議を重ねてきた。この会議の中であらゆるご意見をいただき、施策に反映させている。創業支援については重要な施策ということで、創業支援センターをデザインプラザ1階に移転し、機能の充実を図った。人材育成が重要とのご意見をいただき、今年度から中小企業大学校で研修を受ける中小企業者に対する支援を創設した。昨年11月に中小企業振興会議が主催となり、中小企業フォーラムを開催した。中小企業振興会議から出た様々なご意見を、我々は真摯に受け止め、施策に反映させてきた。

新たな任期の2年間、新たに委員に加わられた方を迎え、様々な協議をしていただく。いろいろな観点からのご意見をいただきたい。県内で最高の中小企業振興施策を、皆さんと共にやりたいと考えている。

○ 会議成立の報告

【事務局】

13名の委員中、13名の出席で、防府市中小企業振興会議規則第3条第2項の規定に基づき、本会が成立していることの報告。

○ 会議の公開

【事務局】

防府市中小企業振興会議規則第3条第4項の規定により、本日の中小企業振興会議は公開とする旨の報告。

2 委嘱状交付

【事務局】

委員の代表に、委嘱状を交付。

その他の委員へは、机上への配布にて交付に代える。

○ 委員及び事務局の紹介

【事務局】

3 正副会長選出

【事務局】

防府市中小企業振興会議規則第2条の規定により、正副会長の選出を行う。立候補者、推薦なし。事務局案の提示。

全委員承認。

4 景気観察指標について

【事務局】

～ 景気観察指標 Ver.4 を基に説明 ～

まとめとして、防府市の経済は概ね横ばいの状態。山口県中小企業団体中央会の景況感調査によると、防府市の製造業、非製造業ともに、前月に比べるとやや下降しているという調査結果が出ている。しかし全国地方銀行協会の山口県全体の景気動向調査を見ると、緩やかな持ち直しが続くとなっている。防府市の景気は、この先も急な変化はないものと思われる。

【会長】

この会議の開催ごとに、景気観察指標を示し、防府市の景気について委員の皆さんと現状を確認する。景況感等、ご意見等あれば伺いたい。

－ 意見なし －

5 平成28年度中小企業振興施策の実施状況について

【事務局】

～ 平成28年度中小企業振興施策の実施状況の資料を基に説明 ～

(1) 経営の革新、創業及び承継の7施策について説明。

【会長】

ただ今事務局から説明のあった施策について、委員からのご意見を求める。

1の小規模事業経営指導費補助金については、商工会議所の経営指導の件数を記載してはどうか。

【A委員】

2の創業支援補助金については、補助金額が少ないように感じる。補助額の増額は難しい場合、制度融資と組み合わせる等工夫してはどうか。補助金の上限が50万円とあるが、事業に対する補助として一律50万円で適正か、考えてみてはどうか。

【会長】

創業支援補助金、創業塾補助金、インキュベーションプログラムの各施策は、連携が取れているのか。

【B委員】

創業支援に関する連携協定で、連携している。

【会長】

パンフレット等で、わかりやすく創業に関する支援の連携を示すと、創業者にとって理解しやすい。

3の創業塾補助金について、創業塾や創業セミナーの参加者に比べ、ビジネスプランコンテストへの参加者数が少ないが、原因は何かわかっているか。

【B委員】

ビジネスプランコンテストに応募できるほど、内容が十分な事業計画を立てている創業者は少ない。

【会長】

インキュベーションプログラムを利用した方の実績が記載されているが、創業者数が11人とある。業種はどのようなものがあるか。

【事務局】

美容院や飲食店が多い。

【会長】

東京の事例で、もともと繊維工業が盛んだった地域で、衣料関係のデザイナーな

どが集まって、繊維・衣料系の領域のビジネスが立ち上がっている。1つの領域のビジネスが集まり、創業が盛んになると、話題になり全国的にも注目を受ける。防府でもそのようなことが起こらないか、淡い期待を寄せている。

【事務局】

創業支援については、活発に取り組んでいる。創業支援補助については、上限を拡大してはとのご意見があったが、財政が厳しい折難しい。しかし、支援件数11件の実績は強みになっている。予算額を増やす方向で検討したい。また、インキュベーションプログラムに関しては、もっと充実させたい。

【C委員】

空き店舗活用促進事業については、商店街に出店した事業者の家賃の補助をするとのことだが、経営指導等のアフターフォローも大切ではないか。この施策に限らず、創業支援等についてもアフターフォローが必要。

【事務局】

空き店舗活用促進については、2年間家賃補助があり、商店街に出店した事業者はがんばって事業を行っている。しかし現状は、商店街としての力が弱っている。行政としての支援は難しい状態なので、まちづくり防府に支援をしていただいているが、成果があがっていない状況。

【C委員】

商店街の振興については、防府天満宮に来る観光客を呼び込む工夫ができないか。東京の巣鴨商店街のように、高齢者向けの商品やサービスを提供するなどテーマを決めて特徴のある商店街作りをするなど工夫する方法もある。商店街の事業者たちがどう対応するのだが。天満宮に来られる観光客を逃すのはもったいない。

【B委員】

中心市街地の振興については、根本的なまちづくりからきっちりとやっていかなければならない。防府天満宮には毎年70万人の観光客が訪れる。この観光客をどう活かすか、考えて行かなければならない。

創業者のフォローについては、重要だと考える。創業後5年間は創業者にとって厳しい状態が続く。帳簿の正しい記載や販売促進など、大変なことがある。商工会議所では、会議所が関わった創業者に対し、3年間はフォローしている。

【会長】

商店街のことは商店街を組織する事業者が自主的に行うことが原則だが、振興会

議として何ができるか考えたい。

商店街の共用スペースについては、本来商店街の組織が修繕等すべき部分だが、これに対する補助を行ってはどうか。（商店街等共同施設補助金で実施している）また、新年度事業でデザイン勉強会を実施するが、まちづくりにとって景観は大切なことなので、商店街もこのデザインを活かしたまたはテーマ性を掲げた環境美化はできないか。

商店街の活性化事業として、プレミアムフライデーにちなんだ小さなイベントを毎週に行ってはどうか。オープンスペースで飲食コーナー等を設けては。

【D委員】

多くの施策・事業を行っているが、画期的な事業ではない。現状の補助額では変化は生まれない。事業をしぼってでも、もっととがった事業を実施しないと、そう簡単には変わらない。空き店舗活用促進についても、1こ1この店舗を支援したところで、まちとしての物語がなければ発展は見込めない。創業支援に関しても、淘汰されるべきもので、事業が上手くいかないものを存続させてもまちとして発展しない。まちづくりに対する大きなプランを持って、それに基づいて実施しなければ、総花的な、無難な施策になっていく。目標をどこに持っていくのかを明確にしながら、大胆さと絞込みを行いつつ、施策を実施しなければ、変化は生まれないのではないか。

【会長】

各施策は小粒で総花的。税金を使つての施策なので、1点に集中させることは難しいと思うが、絞り込んで重点的な施策を実施することも考えてはどうか。

【事務局】

創業支援補助金については、平成25年から始めた制度。最初は件数も少なかったが、創業支援センターを創設し、創業者を支援する体制を作つて、補助申請件数が増加した。一定の成果を上げている。しかし、そのような成果を出した施策でも、D委員がおっしゃるとおり、年数が経つと陳腐化してしまう。振興会議での意見を尊重しながら、今後検討していく。

【事務局】

～ 平成28年度中小企業振興施策の実施状況の資料を基に説明 ～

(2) 創造的な事業活動から(6)産業集積の活性化までの施策について説明。

【E委員】

売れるものづくり支援事業補助金については、応募しやすい事業と思うが、補助

件数が3件と少ない。何か原因があるのか。

【事務局】

売れるものづくり支援事業については、地場産業振興センターのコーディネーターが申請の補助等の支援を行っているが、支援機能が現状弱い。指導員の力が不足しており、事業所への訪問件数も少ない。新商品開発についても、販路拡大についても、伴走型で支援しなければならない。センターのてこ入れをしなければいけないと考えている。山口県中小企業団体中央会のご支援をお願いしたい。

【A委員】

売れるものづくり支援事業のように、事業者にとって有益な事業が多くあるのに、事業者が知らないことが多い。市民や事業者に効果的に紹介する方法を考えてはどうか。

【F委員】

先日事務局と打合せをした際、国の売れるものづくり補助金制度を活用して、各企業が設備投資を行っている旨お話しした。この制度の申請については、各企業では難しい部分が多いため、金融機関が企業の支援を行っている。国の補助制度は規模が大きく、補助の範囲も広いため、市の売れるものづくり支援事業の内容にはそぐわないかもしれないが、こういった補助金があると設備導入・投資に躊躇している企業の背中を押すきっかけになる。制度の充実に期待している。

【D委員】

会社で国のものづくり補助金を利用したことがあるが、制度を知っているからこそ利用ができた。各事業所はこういった制度自体知らないところが多い。特に小規模事業者は知らない場合が多い。これらの制度を各事業所にお知らせして、説明してこそ、制度の利用の促進が図れるのではないか。知ってもらってこそ、これらの施策が生きてくる。

【事務局】

今年3月に「防府市中小企業支援事業・創業支援事業のご案内」のパンフレットを作成し、4月に防府商工会議所の協力を得て、約2,000の事業所に配布した。今後も制度の周知については力を尽くして行きたいと考えている。周知方法等、委員の皆様にご指導いただけると幸せる。

【会長】

行政が作るこういったパンフレットは、かたい印象を受ける。わかりにくい。デ

ザイン勉強会等で、情報発信領域のデザインについても検討されてはどうか。

【B委員】

D委員のご意見は、商工会議所にとっても耳が痛い。情報発信を商工会議所としても積極的にやっていかなければならないと考えている。制度の周知をして行くうえで、制度名をみただけでは、どんなものか理解しにくいものが多いので、しっかり伝えていく努力をしたい。また、今後会議所で巡回経営指導等をした際、各制度と事業所のニーズのマッチングを行いたい。

【E委員】

中小企業団体中央会では、国の様々な補助制度の新聞広告やチラシ等PRを行っているが、周知はなかなか難しいと感じている。

【会長】

(4)の販路の拡大については、今後さらに推進すべき施策と考える。域外への販路拡大については、市内に良い商品があるので、力を入れていただきたい。

【A委員】

地場産業振興センターの地場製品の展示・販売については、展示に力を入れるべきと考える。販売については見直しを行ってはどうか。デザインプラザ1階の展示販売所はレイアウトが有効に利用されておらず、入りやすく出にくい状態。客の入りが少ない。

【会長】

雇用奨励金については、流入人口の増加を図るため、市外からの転入者に対して優遇措置を行ってはどうか。

【事務局】

この制度は、雇用される方が市内に住民登録があることが条件となっている。そのため、市外の方を雇用した場合は、防府市に住民登録をしてもらわなければ対象にならないため、転入者が増え、流入人口の増加につながっている。

【D委員】

サテライトオフィス誘致事業については、良い施策だが知らなかった。市はこの施策のように良いことをいろいろとやっているのに、アピールが弱い。これらの情報を市民や他市町に知ってもらうことにより、防府市の活気や住みやすさをアピールすることができる。情報発信力の強化に期待する。

【事務局】

～ 平成28年度中小企業振興施策の実施状況の資料を基に説明 ～

(7) 従業員の雇用環境の整備、雇用の維持及び創出並びに人材の育成、(8) 資金調達の円滑化について説明。

【G委員】

防府市は情報発信が弱いと感じている。魅力のある情報をまとめて、一覧性の高いものにして見せることが大切と考える。女性の持つ情報発信力の高さを活用することも必要ではないか。

【H委員】

人材確保支援事業に関連する話題だが、人材不足、後継者不足が深刻な問題となっている。後継者不足については、後継者を求める事業者と、事業を始めたい人とのマッチングの機会や場を考えられないか。

【会長】

若者の職場定着推進事業及び若者就業機会拡大事業について、現在大学生の地元就職志向が高まっている。県内の大学生に積極的に防府市の企業の魅力を発信し、若者の防府市への就職を高めるチャンスと考える。また、大学では外国からの留学生を受け入れているが、優秀な学生が国に帰らず、日本で就職するケースが増えている。留学生へもアピールしてはどうか。

職場定着事業については、文科省や大手企業が早期離職を防止するための対策として、インターンシップを重要視している。防府市においても、インターンシップの視点を入れてはどうか。

6 平成29年度中小企業振興施策について

【事務局】

平成29年度新規中小企業振興施策について資料を基に説明。

【会長】

情報発信については、2番の防府デザイン勉強会と含めて、研究してはどうか。

【B委員】

防府商工会議所で、創業から廃業、または事業承継まで、受けられる支援のフローチャートを作成しようと考えている。創業者のみならず、既存の事業者へも配布できるものを作成したい。

事業承継については、国や県が力を入れている。商工会議所も、今年度から支援を行う。市も今後力を入れて欲しい。

【会長】

昨年度話題にあがっていた、販路拡大のための地域総合商社機能の創設についても、今後考えていければと思う。

その他中小企業振興施策についてアイデア等出していただきたいので、会議の場だけでなく、事務局へ意見を伝えていただければと思う。

7 その他

【事務局】

平成28年度防府市の工事・役務・物件契約における中小企業者の受注状況について、資料に基づき説明

【会長】

その他各委員からご意見や景況感等のご報告があればお願いしたい。

【I委員】

創業については、約1,000万円費用が必要になる。私が創業した時は、金融機関から融資を受け、高い金利を支払いながら、必死に事業をやってきた。余程性根を入れて事業を行わなければ、創業してもつぶれてしまう。金融機関は事業計画や事業内容など、知恵を振り絞って、性根を入れてやっている事業者には支援をしてくれる。これから創業する方には、それくらいの気概を持ってやって欲しい。

【J委員】

事業承継については、社長があと何年生きられるか、そこから考えなければならぬ。事業を次の世代に承継するには、数年の時間を要する。私の知るケースでは、廃業する場合でも様々な手続きに2年以上かかった。経営者が存命中に承継をしなければならないので、早めに手を打つ必要がある。

【K委員】

今年度から委員としてこの会議に加えていただいた。古着屋とデザインの事務所を経営している。この会議を通して、様々な補助金や支援施策があることを知った。知らないことが多い。補助金等知っていれば、利用できるものもあった。補助金について事前に調べてみたが、他市の制度と比べると、補助額が低いものがある。事業を始める際比較されると、他市に事業者が流出する可能性も考えられる。補助金

を出せば出すだけ良いというものでもなく、また財源に限りがあり、補助金の増額は難しいかもしれないが、対応策をこの会議の場で考えて行ければと思う。また、これらの様々な施策を発信する力が弱いように感じる。中小企業者支援について総合的に情報提供してくれる窓口、または一括して情報収集ができるサイトがあれば、支援を求めている事業者は助かるのではないか。

【会長】

以上で平成29年度第1回中小企業振興会議を終了する。

会議終了 16時02分